

[町史編さん室] 経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	R1 年度計画額（単位：千円）		R1 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職員	臨時職員
1	町史編さん事業	B	4,720	0	1	2
合 計			4,720	0	1	2

■特記事項

- ①上記の表の職員は、編さん室次長。
- ②上記の表以外の職員として、室長は生涯教育部長が兼務。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	町史編さん室	No.	1
事業名	町史編さん事業		
総合計画の体系	基本目標	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本施策	1	生涯学習の推進
目的	町民の協力を得ながら、「先人の暮らし＝郷土の歴史と民俗」を調査・研究し、詳細な記録保存をして子孫に伝え残すとともに、郷土史の研究に資することを目的とする。		
事務内容	<p>・昭和10年刊行の『大口村誌』と昭和57年刊行の『大口町史』を参照しつつ、原始から戦中を序章とし、戦後から現在に至るまでの『大口町史～現代史編～』を令和4年3月末までに刊行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 勉強会（町史編さん講座）を実施して、町史編さんと編集委員会の組織化に向けた協力者を増やすとともに、情報交換の場とする。 編集委員会を組織し、委員会を運営する。 目次案の作成、内容の協議、文字原稿の作成、写真や図表を入れた本原稿案の作成、校正し刊行する。 記載すべき項目に必要な資料を、事務局と調査協力員で収集と整理をし、編集委員会に提供する。 提供した資料について、町史に資料として掲載する場合に備えて、必要に応じて許諾申請の有無について調査し対応する。 		
現在における経過又は課題	<ol style="list-style-type: none"> 古代から現代までの全面改訂を計画したが、時間的制約により当初から主目標としていた現代史を中心に『大口町史～現代史編～』を令和4年3月末までに作成する。 勉強会（町史編さん講座）をできるだけ実施できるようなテーマと準備が課題であったが、2か月に1度の割合で定期的に行うことができた。 基礎資料となる以下の資料について、作業が完了した。 <ol style="list-style-type: none"> 「広報おおぐち」昭和40年から平成30年までの記事の見出しを拾い出し、検索できるようデータ化した。 「中日新聞」県内版・近郊版・尾張版から大口町関連の記事（昭和54年～平成30年）を拾い出して、記事紙面を撮影し、記事の概要を文字データ化し検索できるようにした。 基礎資料のほかに、町史編さんに欠かせない各種統計資料の収集・データ化、聞き取り調査を進めてきた。 		
令和元年度の目標又は改善策	<ol style="list-style-type: none"> 町史全体の目次の素案を作成する。 町史編さんに結びつくテーマによる町史編さん講座を開催する。 各種統計資料を収集と聞き取り調査を継続し、数値と文字のデータ化を進める。 町史に関して様々な知見を持っている町民に委員になっていただき、大口町史編集委員会を組織し、目次の素案を作り、執筆内容を協議する。その上で令和元年度末までに文字原稿データを完成させる。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	町史編集委員会の発足
6	目次案の作成
	(7月～3月)
	・文字原稿の作成（執筆委員と専門委員が協力して項目ごとに完成させる。）
	・編集委員会の開催（完成させた項目の文字原稿を全員で確認し承認する。）
	(年間)
	・事務局と調査協力員で執筆のための資料の作成と提供
	・町史編さん講座（勉強会の開催：2カ月に1度を目安）を開催し、受講者から情報を得る。

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	R1 年度計画額
事業費		千円	0	448	4,720
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0	1	1
	臨時職員	人工	0	0	2
	計	人工	0	1	3

■令和元年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
合計		

■令和元年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目（科目等）	計画額	増減額	内容
10-5-1-(7)-8 報償費	1,472	1,062	編集委員会の委員、調査協力員
10-5-1-(7)-11 需用費	241	203	消耗品費、印刷製本費（資料のコピー）
10-5-1-(7)-13 委託料	192	192	聞き取り調査録作成業務
10-5-1-(7)-18 備品購入費	123	123	資料及び文字原稿のデータ管理用

■特記事項

令和2年度・3年度に執筆委員の原稿料を予算化する。

■目標又は改善策に対する取組内容

- 1 4月から6月の間で、新しい町史の目次の素案を作成した。
- 2 町史の原稿作成に結びつくテーマを設定し、町史編さん講座を5回開催した。また、第4回は委員自身による発表も行われた、

開催日	内 容
第1回（元.5.13）	地名のいわれ、日記を読み解く
第2回（元.7.14）	戦前・戦後の決算書、日記を読み解く
第3回（元.9.21）	戦後の小中学校、日記を読み解く
第4回（元.11.18）	私の小学校時代（昭和30年代）、日記を読み解く
第5回（2.1.25）	明治・大正の小学校、日記を読み解く

3 資料の作成と収集

- (1) 『愛知県統計年鑑』『愛知県農林水産統計書』『国勢調査報告書』『消防年報』から、大口町に関連した主だった各種項目について数字を拾い出し、統計データとしてまとめた。
- (2) 町内在住の10名の方に対して、聞き取り調査を実施した。
- (3) 町内在住者から資料提供された日記の整理

町内在住の方が書かれた昭和3年から昭和51年までの日記から、その時々々の世相や大口の様子、戦争を挟んだ時期における住民の意識の変化を探る手掛かりとするため、昭和12年から26年の日記を文字データ化するとともに、その成果として町史編さん講座でも参加者と一緒に日記を読み解き理解を深めた。

- 4 原稿作成には、各委員から多くの原稿が提出されたが、資料の整理に時間がかかったため、文字原稿の完成には至らなかった。

■評価

- ・町史の作成に係る資料は整う一方で、資料の整理に時間がかかってしまった。
- ・文字原稿は、本文とコラムに分かれているが、各委員から提出された原稿が「コラム」に分類されるものが多くを占めたため、事務局で本文原稿を作成する必要が出てきたこともあり、文字原稿の完成には至っていない。
- ・よって、次年度においては、作業スケジュールを見直し、写真、グラフ、表やコラムを挿入した原稿を令和2年度末までに完成させる必要がある。